

## 告 辞

本格的な春を迎えて本日ここに、ご来賓ならびに関係各位のご臨席をいただき、佛教大学通信教育課程、第18回前期大学院学位記、第62回前期卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな慶びであります。卒業生・修生の皆さん、卒業・修了、本当におめでとうございます。佛教大学関係者一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業生・修了生の皆さんが、今日この喜びの日を迎えることが出来たのは、もちろん一人一人の努力の賜物ですが、あわせて、皆さんを支え、温かく見守ってこられたご家族、保護者の皆様、友人の方々などの支援あつてのことです。ご家族はじめ関係の皆様には、今日までのご苦勞に敬意を表しますとともに、心からお喜びを申し上げます。

卒業・修了される皆さんは、大学院、学部、といった課程の違いや、専攻、学科など、学ばれた専門領域にそれぞれ違いはありますが、この佛教大学に所定の期間在籍されたわけであります。その間に、本学の建学の理念である仏教精神に基づいて、また法然上人の心をいただいた大学として展開・提供されている教育によって、人間として生きてゆくための智慧と慈悲をしっかりと身につけていただいたものと信じます。

それにつけても、よく忍耐し、頑張っていたいただきました。通信教育で卒業することはたやすいことではありません。まず自らを律しなければなりません。自分で計画を立て、自分で己を励ましながらの道だったでしょう。正に仏教という自策自励であります。苦しい時もあつたでしょう。孤独な時もあつたことでしょう。しかし、自ら目指した目的を一步一步努力して全うした今、大きな満足感となっているものと思います。皆さんに培われたのは何よりもこのやり遂げる力、精進力なのであります。それこそが、今後の人生を歩む上で、皆さんの大きな力となるはずであります。

このほど約9年間に渡った紫野校地リニューアル工事がこの礼拝堂の建立をもって完了となりました。皆様のご支援のお蔭と感謝申し上げます。久しぶりにお越しになった大学の環境が大きく変わってきたことは皆さんの実感するところでしょう。しかし、変わったのは環境だけではありません、みなさんも確実に変わってこられたのです。移り変わる環境と共に、自分自身をしっかりと見つめ、人々と共に生き、人々の為に活動し、社会に貢献できる人材として自己形成をしていただいたものと信じます。

思えば、2011年に東日本大震災がありました。それから7年の年月が経ちましたが、復興はまだ道半ばであります。今なお、苦しみに耐えながら生活されている沢山の方がおられます。わたしたちは、あの大変な災害を風化させることなく、教訓として活かしていかなければならないでしょう。また、その後も各地で自然災害や人災などが頻発しています。さらに世界に目を向けますと、各地で紛争も続いています。このような社会、世界の現状を認識し、危機に対応できる力、危機をのりこえ、希望を持って前に進むことのできる智慧と勇氣を持たねばなりません。

ところで今回が新しく建立されました礼拝堂での二度目の学位記・卒業式であります。この建物は蓮の華をモチーフにして作られてあります。蓮は、インドの国華であり、仏教では私たちの理想の生き方を意味するものとされています。ここに一つの歌があります。

「よく見てくりゃれ蓮の華、汚い泥に足さして、周りは汚い泥の水、それでも華のさくときにや、水の表に顔だして、何の穢れもなきぞこれ蓮」

であります。混沌とした穢れ多い世界であります。自分の人生の花を咲かせるときには自分の一番いいところを穢れなく咲かせましょうよ、というのであります。

佛教大学で学ばれ、身につけられたすべての力を存分に発揮され、素晴らしい人生を送られるとともに、社会

で自分を活かし、活躍されることを祈念いたします。

本日をもって、皆さんは、大学での学びを終え、それぞれの立場で、社会で生きてゆくこととなりますが、時には迷い、立ち止まって考えなければならないことに会うかもしれません。そんな時には、いつでも母校である本学においでください。皆さんと佛教大学との御縁は途切れることはありません。私たちはいつでも、皆さんの再来をお待ちしております。

あらためて皆さんの卒業・修了を心からお祝いし、告辞いたします。

平成30年3月25日

佛教大學長 田 中 典 彦